まい　あーと
■西洋人形「デュエット」
by 野口カオル

〔立川に名犬・珍犬大集合〕

ヒトも歩けばイヌに当たる！

"イヌがスキデ　スキデたまらない！"というヒトは、星の数ほどいらっしゃるようである。なかでも良犬を求めるために、嗅覚ならぬ情報覚を張りめぐらせ、お目当てのイヌが見付かった時の歓びようといったら大変な有様。

ここ高島屋立川店で行なわれた「世界の犬展」も、そんなイヌ好きの面々であふれた。

アメリカン・コッカー・スパニエル（スペイン）ディズニー映画などでも登場する。陽気で快活な性格。

ブル・テリア（イギリス）テリアとブルドッグをかけ合わせた闘犬。

シーズー（チベット）ペキニーズに似ているが頭の毛が長い。そのためかリボンがよく似合う。

ミニチュア・ロングヘアード・ダックスフンド（ドイツ）

キャバリア・キングチャールズ・スパニエル（イギリス）

チワワ（メキシコ）最小のイヌとして知られる。

ワイヤーヘアード・フォックス・テリア（イギリス）キツネ狩りの名手として名高い

シベリアン・ハスキー（シベリア）ソリ引き犬として名を知られる。ブルーの目と精悍な顔つきが特徴。

チャイニーズ・シャーペイ（中国）別名をチャイニーズ・ファイティングドッグと言われ、闘犬に用いられた。

ボストン・テリアン（アメリカ）

秋田犬（日本）獣猟犬・番犬・家庭犬としてアメリカで大人気。日本食だけではないようである。

ピレニアン・マウンテンドッグ（フランス）ピレネー山地で生まれ、「白い勇者」と異名をとる。

ジャーマン・シェパード（ドイツ）牧羊・から軍用まで幅広く活躍。

ボルゾイ（ロシア）イヌの"貴婦人"と呼ばれている。

セント・バーナード（スイス）救助犬として雪深い山などで活躍。

積み実る、スポーツに賭ける若人たち

厳しい練習をもなにくわぬ顔で乗り越えてしまう、エネルギー。
辛くても、いつも爽やかな汗を流している若き立川人たち。
そこには、いつも大きな夢と感動を持ちつづける、純粋さがあった。

高橋義範くん／野球

本格的にボールを握り始めたのが小学2年の時。4年間の練習を積んだのち、立川リトルシニアチームに入る。初めて握った硬球の感触は、なんともいえぬ気分であった。キャッチャーの経験あるピッチャーだけに、絶妙な組み立てと気の強さから投げる、インのストレートはなかなか。全日本リトルシニア代表（20名）として、アメリカ遠征も、5勝1敗。うち、1勝2セーブの活躍。

大場 [illegible]くん／相撲

幼稚園の時に若葉町で行なわれた、相撲大会での優勝がキッカケで、本格的に始めることとなった。週2回の練成館での稽古は、楽しく厳しい。そして、小学4年になった今年、「わんぱく相撲全国大会」に出場。土俵を目の前に恐くなってしまった。しかし、佐川理事長の〃四股を踏め〃の一言に奮起。4年の部、堂々の全国2位。

小林 [illegible]くん／陸上

若葉町の青木さんに見初められての若葉町陸上部入り。ちょうど小学6年の時。走ることに興味を持ち九中陸上部へと進み、2年3年の時には都の指定強化選手に選ばれた。先日福島県で行なわれた、全日本陸上競技選手権100㍍にて、11秒09をマークし全国5位になる。

梅沢 孝くん／サッカー

小学3年生の時より砂川FCで初めたサッカー。連日の朝トレ・午後トレが続くなか、6年生の12月、深夜までの練習が実り読売クラブ入り。世界少年サッカー日本代表16名の一人に選ばれ、副キャプテンとしてチームのムード作りの役に抜擢。持ち前の明るさと負けん気で大役を見事果し、世界少年サッカーのチャンピオンになった。

〃東京トリオ ダンシュ〃演奏会

山本晴勇さん（オーボエ）の木管三重奏団〃東京トリオダンシュ〃の演奏会が次の日程で行なわれることになった。

日時：11月6日（日）PM7：00～
場所：石橋メモリアルホール

＊お問い合わせはビュッフェ・クランポンKK TEL (03)586-4911(代) へ

？立川クイズ

今はあまり聞かれませんが、立川（特に砂川）の方言も味わい中々であります。ところで次の言葉、どんな意味だと思います？

●「すっとび田地」

①とび離れた所にある田んぼ②経済的に困って田畑を手離すこと③強い風で畑の土がたくさんとんでいくさま

【九月号の答】②
旧陸橋脇の柴崎用水が陸橋移転後もそのまま残ったものです。

勇壮！晴朗のなかに、7万人の熱気
─気追え！若者─

夏をしめくくる〃諏訪まつり〃が8月27・28日の両日行われ、恒例の民謡流し踊りや神輿パレードを始め、北口・南口、様々に趣向をこらした催しで街は熱気にわいた。流し踊りには約二三〇〇人が参加、浴衣姿も粋にキマって夏の夜を華やかに彩り、また、神輿パレードには諏訪神社氏子各町会が自慢のみこしを繰り出してセイヤセイヤのかけ声勇ましく、半てんもしぼるような汗にぬれながら威勢よく練り歩いた。両日の人出は七万人を越え、みこしのかつぎ手も増えている等、年々盛り上がりをみせているのもうれしい話である。

立川駅長列伝
⑩ 中野 明

第二十八代 常世田 千代松
（昭和四十三年二月－同四十五年二月）

常世田氏が立川駅長として赴任した昭和四十三年は、国鉄の各職場における細々とした諸問題は現場長と組合の分会長とが話し合って解決しようとする〃現場協議制〃が採用された年であった。国鉄の生産性運動の陣頭指揮をして来たOBの大野光基氏は、その著書『国鉄を売った官僚たち』の中で、─昭和四十三年七月には、以後、十数年にわたって国鉄の職場荒廃の元凶となる「現場協議制」が始まった。─と記している。

常世田駅長が着任と同時に真っ先に取り組まなければならなかったのは、立川駅構内のヤードで働く職員に安全帽を着用させる事だった。当時、ヤードを職場とする職員六十七名に安全帽を着用する義務が課せられていたが、拒否していた。この年の八月、拝島駅構内で入換作業中の職員が接触事故を起こしたが、幸いにも安全帽を着用していた為、安全帽そのものは真っ二つになったものの、軽い怪我で済むという事があった。常世田駅長は早速、この真っ二つになった安全帽を借りて来ると立川駅構内に一週間展示し、安全帽着用の必要性を説いた。これを機に三十名が安全帽を着用、以後も地道な説得を続け、職員全員が着用するに至った。

常世田駅長の国鉄を愛する心はこんなエピソードにも表われている。全中労が国鉄運賃値上げ反対の陳情に立川駅を訪れた時の事である。全逓委員長の土井氏が、時の国鉄総裁石田禮助を指して、「あんな年寄りに何ができるものか！」と言ったとたん、常世田駅長は机をドンと叩いて立ち上がり、「国鉄一家の親父の悪口を言うとは何事か！」と一喝し、表明文を突っ返したという。常世田駅長もまた、自分の信念に忠実に、決して妥協する事なく鉄路を死守して来た、心熱き国鉄マンの一人であった。

漢字テスト㉝

空欄に一字挿入を試みよ。

奇●天外
清風●明

表紙は語る

「〃デユエット〃は友人と2人で作った二体一組の一体でして、実はきちんと教えていただいて作った初めての作品なんです。友人と自己流で作った人形の指導をぜひ、と、とびこんだのが〃サロンド プペ〃西洋人形教室。そこでとてもわかりやすく教えていただきましてね。娘がバイオリンを習ってますので、それをイメージして作ったんです。先生の『出来ばえではなく心のこもっていることが大切』という言葉に励まされまして。娘がモデルなので特に愛着があって、この人形、家の中の一番いい場所を占めています」と朗らかに笑う作者の野口カオルさんである。

根岸敏治さん（柴崎町）が中国へ技術指導

柴崎町4丁目在住の根岸敏治さん（68歳）が、中国より招聘されはるばる製餡技術の指導にあたることになり、九月七日、元気に北京へ向けて出発した。

根岸さんは昭和十年、十五歳の時に立川へ和菓子の修業のため山梨県から上京。十五年、立川が市制をひく年に出兵して中国へ渡る。「終戦後、二十一年に帰って来たのです。この間に現地で覚えた中国語が、この平和な時に役立ってくれようとは」と顔をほころばせた。年季のはいったアンコ技術が日中友好に役立たんことを！

備えあれば「災害」なし
─総合防災訓練─

北と南と、交互に行なわれてきた総合防災訓練も、15回目を迎えた。400人もの市民が、会場である第一小学校に集い消化器の扱い方や応急処置の方法などを訓練した。

災害に対する、市民の意識向上などをテーマに行なわれ、自営消防隊など17団体の積極的な参加によって防災への認識が深まったようだ。

漢字テスト・こたえ

奇想天外（きそうてんがい）
まったく思いもよらないような珍しいこと。アイデア、創造性は常識を破らねば出ない。

清風明月（せいふうめいげつ）
初秋のすがすがしい感じ。清らかな夜風と澄んだ明るい月の光。

真如苑だより

食べ物何でも美味な季節。馬肥ゆる秋とも申しますが、食欲増進と共に身体を動かすのも大切。中でも早足で歩くというのは大変身体にいいとか。散歩がてら今月もどうぞ。

■日時　10月22日（土）午後2時～4時
■立川市民（成人）に限らせて頂きます。
■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

工房から

●今年も通例のごとく、諏訪まつりの賑やかさについつい足が向いてしまいました。ただ昨年とは違い、足の進みぐあいがとても鈍いのであります。熱気ある人たちが増えたのでしょうか。南商連の吉田さんに聞くところによると、一万人近い増とのこと、実行委員会の皆さまお疲れさまでした。来年のお祭り、今から楽しみであります●楽しみといえば〃スポーツ〃。今年の若き立川人の面々は、実に全国、世界に名を轟かせました。上部にある顔をどこかでお見かけの方は、一声かけてやってください●〃人も歩けば犬に当る〃ほど街に犬があふれていますが、たまにはこんな変った世界の犬はいかがでしょうか。人も犬も個性が豊かのようで●白壁に　蜻蛉過る　えくてびあん

（編集）石塚敬美　小川知子　神山清子　隈川理　田中恵子　沼上麻里　半沢正弘　原田悦子
（写真）天野武男　板橋一明　吉田義治　スタジオ269

月刊えくてびあん　第51号
昭和六十三年十月一日　発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町2-4-11 ファインビルディング3F
電話　〇四二五(28)〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　㈱大廣社

あーとさろん

音楽が好きで、とにかく音楽がやりたくて、環境・周囲の反対、様々な難関を熱意と工夫でクリアー、この世界にとびこんだ人たち。10月は演奏家の方たちです。

吉田文子さん　ピアノ　●恩師ディッヒラーさんと。

本田純一さん　バイオリン

▲毎年一ヶ月位ウィーンへ行き、留学時代の恩師のもとでみっちり勉強。すでに20年のつきあい。（幸町）

▶日フィルの団員として多忙な演奏活動の中近々、室内楽団を結成。更に充実をめざしている。（砂川町）

四戸世紀さん　クラリネット

▲ベルリン交響楽団首席奏者。「小学生の時、反対を押し、小遣い全部で楽器を買った」のが始まり。（錦町）

山本晴勇さん　オーボエ

▲尊敬する先輩とのトリオはふだんの仕事でする演奏ではないだけに、心ゆくまでの真剣勝負、と。（柴崎町）